
ラブデビル25

皐月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブデビル25

【Nコード】

N4958Z

【作者名】

皐月

【あらすじ】

地味で仕事一筋な しみずゆつり し、清水有理は、ひょんなことから自らをラブデビルと名乗る悪魔と出会う。

恋の悪魔、ラブデビルは彼女の恋を叶えるために来たというが・・・？

悪魔との出会い

画面の向こうで、黒人の男と白人の女が抱き合っている。

『ボブ！私、あなたが好きよ。』

『キャサリン…。僕も、君を愛しているよ。』

どちらも今話題沸騰中の人気俳優（女優）だ。

それからその映画はクライマックスのキスシーンへと入る。

度々Cで紹介されていた「全米が号泣した！」というテンプレートじみた言葉はダテではないようで、不覚ながら自分もウルツときた。

見つめあう2人、狭まる距離。

唇と唇が重なり合うその瞬間、テレビがブチッと音をたてて暗くなった。

「ちよつ、ちよつと！今一番いいところじゃない！」

誰もいない室内で、思わず大声を上げてしまった。
いけない、いけない。

1人暮らしをしてから、やけに独り言が多くなった気がする。
私もそろそろ25歳になるのだから、キャサリンとボブのように
気楽に話ができる恋人の1人や2人くらい…。

「はあ…。」

そんな暇ない…か。

不貞腐れながら、テレビを控えめに叩いてみる。

このテレビ、最近買ったばっかなのになあ。

『くだらん』

テレビの中から不意に声が聴こえた。
直ったのだろうか？

しかし映像が映る気配はない。

『実にくだらん』

ジジ…ジジジツ…

すると今度は急にテレビの画面が砂嵐になる。

「な、何！？心霊現象！？」

テレビを前に腰の抜けた私はビクビクとしながら様子を窺う。

しばらく様子を見てみるとさらに腰の抜ける出来事が起こった。

なんとテレビから手が出てきたのである。

まるで生きている人間の手ではないような、真っ白な手…。

驚きすぎて声も出ない。

口をパクパクすることしかできない私はその場から動けずにいた。
手から始まり、頭、足…と次々とその人ではない何かはテレビか

ら這い出てくる。

そしてついに足のつま先のようなものまで出し切ったソレは、私
に向かってこう言った。

『お前は今日からキャサリンだ。』

私の視界…フェードアウト。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4958z/>

ラブデビル25

2011年12月16日21時57分発行